

JAきたみらい

おひさま サタダ

2018



vol.191

12



はいっポーズ!

《北見地区・美里》

まさと あきこ
佐藤正人さんと亜希子さん・

はなえ けいこ りお そのみ
花恵ちゃん・圭悟くん・里桜ちゃん・好望ちゃん

(紹介は2ページです)

特集

平成30年産
農畜産物を振り返って



長いものを求め、 長蛇の列

季節の薫り



ＪＡ主催の「長いもまつり＆収穫感謝祭」が11月18日、北見市東相内の㈱マルキタ地方卸売市場内で開催され、氷点下に冷え込んだ早朝からお買い得価格の長いもを求める来場者で長蛇の列ができました。一番の人気商品は500円の袋入りの長いもで、多くの来場者が我先にと購入していました。また、2千～5千円の箱詰めの商品を台車に20箱も積み上げて購入する来場者もいて、用意した約20トンの長いもが飛ぶように売れました。

会場では長いもの他にも長ネギやゴボウなどの地元産の秋野菜の販売やマグロの解体実演、水産物の販売も行われました。また、来場者はＪＡ加工品を使ったザンギや市場関係者が用意したゴボウ出汁が効いたつみれ汁など味わって楽しんでいました。

(北島 太)

写真は11月18日、マルキタ地方市場内で撮影。
約2000人が来場しました。

もくじ CONTENTS

特集	平成30年産 農畜産物を振り返って……………4
○季節の薫り……………2	
○表紙紹介……………2	「思いやりのある優しい子に育つ」
○地域だより……………12	
○ほのぼの広場……………14	・きたみらい青年部 ・なかよし夫婦 ・プリティーウーマン ・わが家のアイドル
○ＪＡからのお知らせ……………16	
○おひさまサラダクッキング……………24	「根菜とミツバのおかゆ」 「切り干し大根とミツバのおひたし」

表紙紹介

思いやりのある優しい子に育って

佐藤家は4人の子どもたちでいつもにぎやかです！長女の花恵ちゃんは、友達のおしゃべりが大好き。先日はアジア国際子ども映画祭で、外国の方からプレゼントをもらったと嬉しそうに話してくれました。長男の圭悟くんは、最近エレクトーンをはじめました。絵や作文も得意でいろんな才能が開花しています！次女の里桜ちゃんは、リレーやかけっこが大好き。しかし、それ以上に走るのが得意で元気いっぱいなのは、三女の好望ちゃん。幼稚園で遊ぶときは、年長さんよりも長い間走っていられたんだとか！里桜ちゃんと好望ちゃんは、お気に入りの人形、ボボちゃんとおねちゃんについて一緒に遊んでいます。

右の写真は、それぞれの宝物を身に付けて撮影しました。花恵ちゃんは外国の方からのプレゼント、圭悟くんはギター、里桜ちゃんはお友達からくれたお花のついたカゴ、好望ちゃんはお気に入りのおもちゃです。

元気がいっぱい4人を眺めながら、お父さんとお母さんは「子どもたちには思いやりのある優しい子に育ってほしい」と話してくれました。(石井 睦美)



【ご家族紹介】
左から～お母さんの亜希子さん(39)、次女の里桜ちゃん(6)、長男の圭悟くん(9)、長女の花恵ちゃん(9)、三女の好望ちゃん(4)、お父さんの正人さん(37)
佐藤正人さんは馬鈴しょ、小麦、玉ねぎなど35%を作付けしています。

平成30年産 農畜産物を振り返って

水稲 天候不順も 8俵確保

播種作業は4月中旬より開始し最盛期は4月下旬となりました。育苗期間中に低温傾向だったものの苗立枯病の発生は少なく、平年並みに充実した苗質となりました。移植作業

は5月21日から開始し、移植終は好天に恵まれ3日程度早まりました。活蓄期も6月1日と3日早まり生育は進みましたが、6月からの低温・寡照により生育は停滞しました。幼穂形成期は7月3日と概ね平年並みに経過し、前歴期間・冷害危険期間に冷涼な天候が続き生育進捗は遅れに転じ、出穂最盛期である7月下旬

平成30年もあと少しとなり、長いようで短い一年が終わりを迎えようとしています。
今年の北見地方は大きな自然災害はありませんでしたが、畑作から酪農農家まで低温と長雨で苦勞した一年でした。また、9月のブラックアウトには本当に驚かされました。
一年を振り返り、主要農畜産物について各生産組織の代表者より総括していただきました。

には好天に恵まりましたが生育のパラつきが解消されることなく、その上、8月に調査する不稔歩合は平年の倍程度もあり作況傾向は平年を下回る予想となりました。

病害面では、いもち病は全道的に発生が少なく、当地区においても発生予察に基づく適切な防除により抑えることができました。

收穫作業は9月27日から開始し、度重なる台風の到来により受入中止は4日間となり10月15日で終了し操業日数は14日間となりました。

平成30年産の水稲は、管内作況指数90（前年105）の不作となりましたが、当初見込み反収420kgを上回る10⁷当たり480kg（昨年568kg）となりました。品質は、青未熟粒が多く、細粒傾向となり、胴割粒も多く見受けられ全量1等とはならず、製品歩留まりは79%で調整を終えました。

天候不順の中、 会員の努力に感謝

きたみらいもち米振興会
会長 沼崎 栄治



本年を振り返りますと、春の育苗期から耕起・移植作業等天候に恵まれ順調に進みましたが6月からの低温・寡照により茎数生育は停滞しました。幼穂形成期は7月3日と概ね平年並みに経過し冷害危険期には冷涼な天候が続き生育進捗は更に遅れに転じ、出穂最盛期である7月下旬には好天に恵まれましたが生育のパラつきが特に多く、不稔歩合は平年の倍程度となり作況は道内他産地と同様に平年を下回る予想となりました。收穫作業は、9月に入り好天が続き適期收穫の見極めにより、9月27日から開始し10月15日に農作業事故等もなく無事終了し操業日数は14日間となりました。その結果、調整中であり予想でしか報告できませんが、30年産の水稲は、管内作況指数90の不作となり、きたみらいもち米平均で当初の見込みを上回る10a当たり480kg（8.0俵）の収量です。又、品質は、出穂から開花、登熟まで全てにおいてパラつきがあったことから、青未熟粒が多く、粒形は不十分で細粒傾向となり、更に胴割れ粒も多く見受けられ、調整には非常に苦勞しているところですが、特裁は全量1等米、慣行は正粒不足により全量1等米とはならず2等米も含み12月4日頃終了の予定です。今年1年間、会員皆様には安定供給に向け、日々の農作業管理にご努力いただき感謝申し上げます。今後とも、きたみらいもち米の振興に際し、オール北海道で実需者と共に更なる消費拡大に向け、役員・JA・関係機関と取り組んで参ります。

類 春小麦は登熟が 遅れ品質に影響

◆秋まき小麦

播種時期の好天により作業は順調に進みましたが、一部、作業が遅れた圃場では越冬前の茎数が少ない傾向となりました。例年と比較して積雪が少なく、土壌凍結の深さは平年並みとなりました。融雪期が9日早く推移したことから起生期は6日早くなった結果、幼穂形成期は2日程度早まる進捗となりました。5月の

天候は順調に経過しましたが6月からは低温傾向となり、進んでいた生育進捗は7月に入り遅れに転じ、成熟期は2日遅れとなりました。7月最終週のやや強い風と高温により成熟が進み、登熟期間は51日間（平年49日間）となりました。

また、病害では昨年に引き続き「コムギなまぐさ黒穂病」の発生はありましたが、連作、極端な遅まきの回避等、耕種的な対策と併せて、出芽後防除の徹底により被害は大幅に減少し、きたみらい管内における罹患面積は1.4haとなりました。收穫は前年より6日遅い8月2日

◆春まき小麦

から始まり、圃場での乾燥が進み水分が低い中、刈取期間中の天候にも恵まれ8月7日に刈取はすべて完了し実受入日数6日間と過去になく早い期間で終了しました。

本年度の収量は、規格外込みで反当平均612kg（前年582kg）、正歩留まりは1等比率で90・3%（前年85・1%）となり、品質面では過度な追肥の回避を関係機関と連携し啓蒙した結果、問題視されていた高タンパク値が昨年と比べ改善され、容積重も基準値を上回り、全量1等Aランクとなりました。

基準見直し、過度な追肥が減少

きたみらい麦作振興会
会長 西野 繁



30年産を振り返ると秋小麦は、播種時期も順調に推移し、越冬前の生育量は若干少ない傾向でした。春先の融雪が早く順調に生育していましたが、6月中旬からの天候不順により收穫時期は例年より1週間程度遅れて始まりましたが、收穫期間は6日間で終了することができました。また、「コムギなまぐさ黒穂病」は生産者の理解と努力により激減しました。今後は本病害に対する新たな情報をより一層集め、発生ゼロを目指して行きたいと思います。春小麦は融雪が早かったことから播種作業は例年より早く進みましたが、秋小麦同様に6月中旬以降の天候不順の影響を受け、收穫時期も例年より5日ほど遅れて始まり、天候にも恵まれず降雨後は穂発芽が多く発生しました。また、今年から精算基準に合った内部の小麦格付け基準の改定を行いました。その結果、過度な追肥などが少なくなり適正茎数で生育した結果、倒伏・細麦が少なくなりタンパク値も下がったと思われます。秋小麦・春小麦は天候により若干明暗を分けた結果となってしまいました。生産者の皆様には、コムギなまぐさ黒穂病全筆調査をはじめ收穫作業にご理解ご協力頂き誠にありがとうございました。今後も振興会役員一同並びに関係機関と連携を図り、次年度に向けては高収量・高品質麦の生産に取り組んで参りたいと考えておりますので、関係各位のご協力をお願いします。

融雪期が早かったため、播種作業は平年より早く開始し順調に終えました。出芽は平年並みに推移し、出芽後も気温が高かったことから幼穂形成期は平年よりやや早まりました。しかしその後の低温により乳熟期は遅れとなり登熟期間は43日間（平年42日間）となりました。

目立つ病害虫の発生は少なく、6月から7月まで低温傾向で成熟前の早い段階から倒伏する圃場も見受けられませんでした。

收穫は6月からの低温による生育遅延により、前年より4日遅い8月11日から開始しました。受入原料は高水分のものが多く、盆前の受入完

JAきたみらい産もち米（きたゆきもち）

	10a反収	等級	製品歩留	色下歩留	網下歩留
平成30年産	480kg	1等・2等	79.0%	17.0%	4.0%
平成29年産	568kg	1等	85.9%	9.7%	4.4%
平成28年産	559kg	1等	85.7%	7.4%	6.9%
平成27年産	618kg	1等	84.5%	11.5%	4.0%
平成26年産	612kg	1等	83.7%	11.0%	5.3%



了を目指しましたが8月14日正午からの降雨は16日まで続き、受入を再開したのは8月19日。その後3日間の受入を以って終了しました。品質は盆前に受入れた約7割の原料と降雨後受入となった3割とで大きく異なる結果となり、降雨後受入原料はほとんどが発芽し品質評価項目のフォーリングナンバーは基準値300以上のところ100未満との測定結果がありました。製品歩留の向上並びに生産者手取り確保を目指し、比重選別機による重点的な仕分けを実施し雨後原料の3割を製品に仕向け、全体の歩留まりは65・5%（前年81・3%）となりました。品質状況としては生育期間中の低温による成熟不足があり、特にフォーリングナンバーは昨年の平均値374secを大きく下回る平均値301secと低い結果となりました。



特集 平成30年産 農畜産物を振り返って



オホーツクブランドの確立を

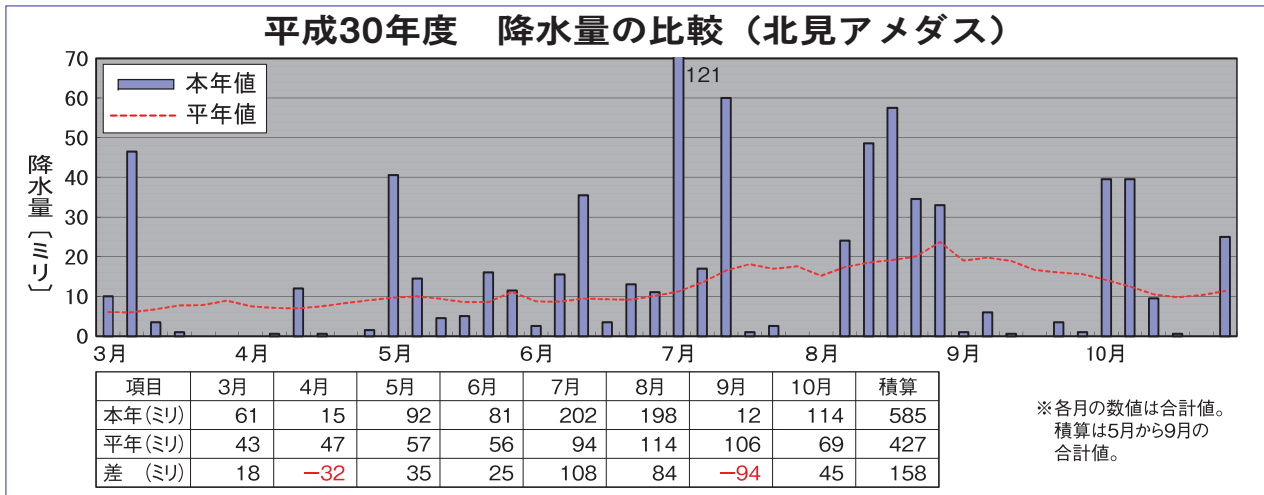
きたみらい豆類振興会
会長 丸本 仁

本年を振り返ると春先の融雪も順調に進み、例年にない好条件で播種作業が行われ、発芽も良好だった事から、出来秋が期待されるスタートとなりました。しかし、6月からの低温・日照不足により豆類全般で生育が停滞し、高級菜豆については、開花期の高温により花落で莢数が減少し収量に大きく影響しました。大豆や小豆は収穫時期が遅れましたが、収量は平年並み以上を確保しました。ただ、成熟がまばらで未熟莢の混入も多く、乾燥作業に苦労する状況でした。

本年の豆相場は高騰していますが、経営面積拡大により、手間のかかる高級菜豆の減少が懸念されています。ユーザーへの安定した国産豆類の供給のためにも面積の維持が必要であります。

本年度からオホーツクビーンズファクトリーが稼働し、当農協の豆類の全量が同施設での調整となりました。オホーツク管内の豆類が集約され、高度な調整施設と冷蔵貯蔵庫で高品質な豆類の安定した供給産地として十勝地方に負けないオホーツクブランドの確立が期待されることです。

「きたみらい豆類振興会」は高級菜豆や小豆の面積維持と増加傾向にある大豆の作付けに対応するために採種圃場の適正な面積の確保と地場産の健全種子を供給し、各種豆類の作付面積維持と品質の向上に努めて参りますので、今後とも皆様のご理解とご協力を頂けます様宜しくお願い致します。



豆類

大豆・小豆は平年作を確保

播種作業は5月中旬より開始し順調に完了しましたが、6月からの低温と日照不足により生育は遅延し、豆類全般で開花は平年より遅れる結果となりました。虎豆では9月中旬でも根切作業が始まらず、小豆も大幅な生育遅延となり収穫開始は遅れました。

作況をみると大豆はほぼ全量が「大粒」原料となっておりますが、収穫期間中は降雨が多く圃場条件が悪

い中の収穫作業を余儀なくされ汚粒の発生が散見されました。

小豆については個人差があるものの着莢数が確保できたことで収量は昨年を上回っていますが、霜後の収穫による品質のムラや生育の遅延による不乾品が目立ちました。

高級菜豆については6月の天候により生育の停滞が顕著となり、圃場差はありますが、多くの圃場で下莢がつかず、収量は平年より著しく低下する見込みです。

収量については、大豆4・2俵、小豆4・2俵、虎豆2・8俵、大福1・9俵、白花豆3・0俵・紫花豆



で2・5俵と大豆、小豆は平年値を確保したものの、高級菜豆では平年を下回る見込みとなっています。



増収増反に向けアイデアを

きたみらいてん菜振興会
会長 原 智徳

本年を振り返ると干ばつや局地的な豪雨を受け、地域間差が見られましたが、トータルでは平年並みの収量及び糖分で推移しており安堵するところです。

6月時点の生育調査時は平年をかなり上回る結果が出ており、豊作に期待を寄せておりましたが低温多湿傾向で生育が鈍り、地域間差はあれども湿害の影響を受け期待した豊作とはやや違う感は否めません。

しかし、播種定植期において連休中の雨以降1週間程作業が停滞しましたが、その時点で概ね播種定植作業が終了しており、最初の生育調査時点までの良好な生育がその後の悪天を凌ぎ平年作で留めたとも言え、改めて早期播種適期作業の重要性を裏付けられた年産になったと思います。

昨年同様根腐病等も少なく、綺麗な原料で10月18日より集荷開始。翌日から製糖開始しましたが9月の震災の影響で予定したトラックの数が減少し、例年より繊維質の高い原料が多い中で裁断やバルブになる工程で苦労をしているようですが、大きく遅延する事なく輸送が終了し無事に製糖が終わるように願うところです。

昨年の当該糖区は平年並にも関わらず他糖区での大豊作で支援対象数量を上回りましたが、本年は他糖区も平年作のようで、全道的に昨年より面積も減少しており、現状としては支援対象数量の64万トンを超えないだろうと予測されています。

一時4,000ha程迄に回復した面積もまた減少しつつあり、増収増反に向けて糖業及び農協と取組を模索していますが、生産者皆さんからも意見やアイデアがあれば提案頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。

てん菜

病害虫が少なく糖分は良好

4月は融雪が早く移植作業・播種作業ともに平年より早く開始し、5月初旬に降雨があり作業は中断しましたが移植終・播種終ともに平年より早く完了しました。早期に移植・播種が終了し風害等の被害もなく平年より生育は進みましたが、6月に入り低温多雨寡照で生育は緩慢となり、圃場は湿潤気味となりました。

7月に入っても断続的な降雨があり、一部の圃場で湿害に見舞われました

が、全体の生育は早期移植・早期播種による初期生育の確保が功を奏し2〜3日進んで経過しました。9月中旬の生育状況では移植・直播とも平年を上回る生育が確認され、9月は降水量が少なく干ばつ傾向となりましたが、10月には適度な降雨で、病害虫の発生も少なく茎葉および根部は健全な状態で糖分は高い傾向となりました。

原料輸送は平成30年北海道胆振東部地震の復興事業に伴い、輸送トラックの確保が厳しい状況下でありましたが、きたみらい計画数量178,600tを11月中に完了させる計画

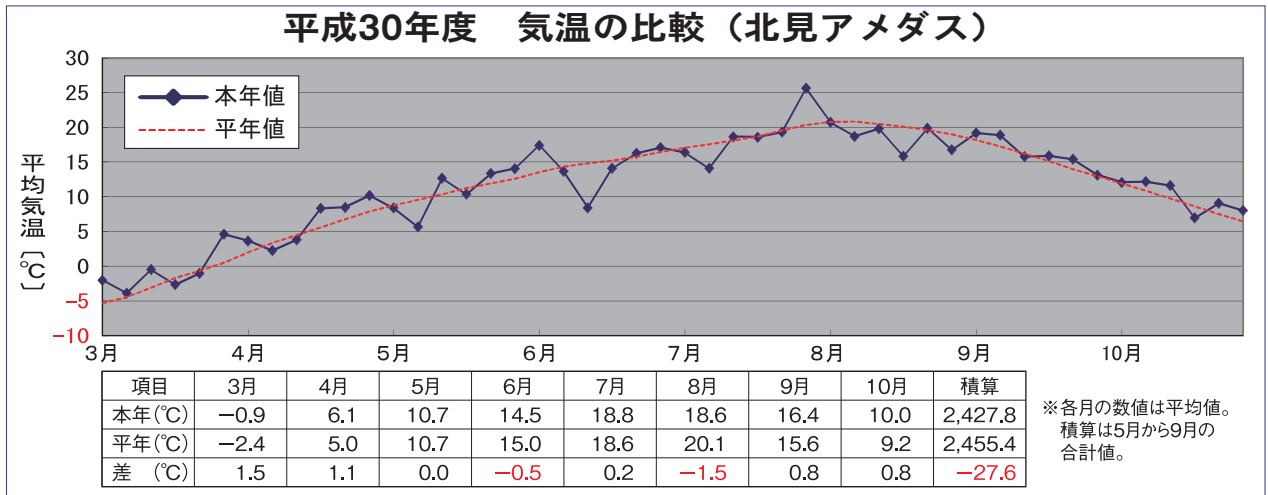


を立て、ほぼ予定通りに進んでいます。生産実績見込みでは、6月以降の降雨と低温、更には9月に到来した台風の影響により全道生産量は昨年を下回る61t/haが見込まれています。

きたみらい管内は51t/ha、糖分で17・6%を見込み輸送計画を立てたところですが、計画を上回る実績で経過しております。30年産てん菜原料は全道的な面積の減少で産糖量の生産見込みは支援対象数量64万tを下回ることが想定されております。

J A きたみらい産 てん菜

	作付面積	ha収量	糖分	ha産糖量
平成30年産見込	3,406.82ha	51.71	17.6%	9.088 t
平成29年産実績	3,768.49ha	51.57	17.6%	9.054 t
平成28年産実績	3,942.78ha	40.56	16.3%	6.592 t



特集 平成30年産 農畜産物を振り返って



**「安定品質と安定供給」
これが、「選ばれる産地」
きたみらいの馬鈴しょ**

きたみらい馬鈴薯振興会
会長 **佐藤 茂樹**

今年の播種作業は、4月上旬より前進栽培から始まる。一般生食、加工用と順調な植付け開始となりました。5月連休には、降雨もあり植付け作業は中断しましたが、その後天候も回復し、一般栽培や加工用馬鈴しょとも例年同様に5月20日頃には概ね終了となりました。6月の培土時期に入り、曇天・長雨・低温・日照不足が続く、生育停滞が懸念されましたが、7月中旬以降には天候も回復したものの、高温・干ばつ傾向が8月中旬まで長引き、莖葉部の黄変が見られ一気に仕上げられた状況となりました。男爵は平年作を下回る収穫量となり、加工系のチップ・サラダ用途についても同様で、平年よりも小ぶりとなり、収量は伸び悩みました。収穫繁忙期の9月には天候にも恵まれ、収穫作業は順調に推移して近年、稀に見る収穫進捗となり、後作の小麦播種も順調に終わる事ができました。馬鈴しょの品質面では、前年産を下回る平均反収3,250kgとなり、平年を下回る出来秋となりました。規格流れも小玉傾向とあって、近年の中では歩留率が高い中で推移しており、B品の発生も少ない状況となっております。

尚、全道的にも6月から7月に掛けての天候不順の影響を受けて不作となり、総体の出回り量も近年では最も少ない見込みとなっております。春先からの馬鈴しょ全体での安価な市況からは一転して、現状は、市場価格も安定しており、荷動きも停滞しない中順調に推移しております。今後においては、消費地との連携と情報共有を密に取りながら貯蔵産地の責任として、良品質馬鈴しょの供給を進めて参りたいと思っております。今後とも「求められる産地」「選ばれる産地」として、「生産者の作付意欲の向上」を考え、馬鈴しょの面積減少を食い止める為、振興会として取り進めていきたいと思っておりますので、会員皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、次年度も実り多い年に成る事を祈念申し上げます。

馬鈴しょ
全道的に平年を下回る
収量、価格浮揚を目指す

植付作業は、融雪が順調に進んだことで平年より大幅に早い4月12日開始となり、その後も好天に恵まれ、5月連休前には50%程度の植付け終了、その後、降雨の影響で一時的に停滞したものの5月20日には概ね終了となりました。植付後は、気象も安定しておりましたが、6月中旬より、長雨、曇天、低温、日照不足と異常気象となり、萌芽も遅れるなど生育が心配されました。

中旬頃まで続きまして、開花も不揃い等、低温、日照不足の影響から生育は一時的に停滞しました。7月下旬からは高温熱波、干ばつ傾向となり気候は一変して、莖葉部の黄変が一気に進みました。また、馬鈴しょの収穫作業は、前進栽培より平年並みに開始され、その後も好天に恵まれた事で収穫作業は順調に推移して、選果歩留まり（正品率）も平年を上回っています。

道内の本年産馬鈴しょの作付面積は、28,069haとなり、前年に対し359ha減少、昨年は一時的に面積回復したものの、本年については、近年続いていた減少傾向に歯止

玉ねぎ
全道地域間で
大きく異なる収量

植付作業は、平年より早い開始となり5月連休後半の降雨で作業は中断しましたが、降雨前まで順調に進んでいたことから、総じて平年並みに終了しました。植付後は、例年に無い順調な生育で推移したものの、6月中旬以降の低温、日照不足、長雨による生育の停滞、7月の高温、早魃によるダメージにより倒伏が早まり、減収が心配されましたが、オホーツク管内は8/8～9の降雨が間に合い順調に肥大、圃場差はあるものの総じて平年作以上の収量を確保した状況にあります。

全道的には、倒伏が早かった空知、上川地区は降雨が間に合わず大きく減収の状況で、主産地毎で大きく異なる年産となりました。（反収…全道5,140kg、空知地区4,160kg、上川地区4,350kg、北見地区5,850kg）

収穫作業は、極早生は順調に収穫、早生品種が8月に断続的な降雨により後ずれしましたが、9月以降は天候に恵まれ順調に収穫が進み高品質な仕上がりになりました。

全道の作付面積は、12,858・8ha（前年12,857・5ha）となり前年並みの作付面積となり、生産量は、60,563t（前年718,030t）前年比92%となりました。



高品質、安定出荷に期待

きたみらい玉葱振興会
会長 **飯田 裕之**

本年は3月上旬季節外れの大雨により、ハウスに流入した水害など例年に見られなかった状況が、4月中旬後半から好天に恵まれ順調に作業は進みましたが、連休後半から長雨により一部圃場では1週間ほど圃場間で推移したものの、5月中旬以降は、例年に見られなかった順調な生育で推移しました。

6月に入ると、低温、日照不足、長雨により生育は停滞、全道的にも天候不順が続く、軟腐病の発生が例年になく多く散見されました。7月の高温、早魃によるダメージにより倒伏が早まり、道内の主要産地は不作の中、きたみらい管内では反収5,850kgと平年作と同等の収量を確保、生産者個々の栽培技術の高さと普及の取組みにより、土作りの結果と考えると販売価格がスムーズにでき、極早生から高値という切り替えが実現しています。全道的に生産量も少ないという状況です。

現在、選果場を新設している所がありますが、7月に新貯蔵庫の修繕式を終え本年産玉ねぎが既に約9,000基保管され、品質維持や長期計画出荷に期待できるものとなっております。新選果場も平成31年産より稼働する運びとなっております。

また、超遅出し玉ねぎの取組みは3年目となり、すでに市場、ユーザーの評価は良好であり、今後とも取組を続けて参ります。通年出荷に向け極早生も考え、出荷の組み合わせで行うことも考えています。

今後、選果場を新設している所がありますが、7月に新貯蔵庫の修繕式を終え本年産玉ねぎが既に約9,000基保管され、品質維持や長期計画出荷に期待できるものとなっております。新選果場も平成31年産より稼働する運びとなっております。

めを掛けられない状況となっております、依然として加工系品種（チップ用途）にシフトし生食系品種の減少は続いております。

収量面では、30年産全道馬鈴しょの生産動向は、平均反収3,200kg（前年3,600kg）の収量見込みとなっております、男しゃくにおいては全道平均2,990kg（前年3,350kg）、北見地区3,180kg、倶知安地区2,680kg、帯広地区3,330kgの見込みとなっております。

販売環境については、春先からの府県産を中心とした価格低迷もあり、販売環境の整備を進めて年産当初より、北海道産の市況浮揚に向けて、市場各社に対して本年の産地状況を緊きながら販売要請を実施して参りました。販売当初は天候不順など入荷量が安定しなかった要因から、8月市況は強含みで推移しました。9月以降は、胆振東部地震に伴うトラックアウト及び輸送遅延等により、9月中旬頃まで不安定な入荷が続いたものの、それ以降は各産地の出荷も出揃い始めてピークを迎えた事により、荷動きも落ち着き市況は弱含みの展開となりました。

10月以降は、道南、道央、空知を中心とした中間産地の出荷切り上がり等、市場内在庫も解消され、消費



じゃがいも問題研究所所長キャラクター
「いもろう所長」
【ホームページアドレス
http://www.jagaimondai.jp】

宣伝を絡めた売場拡大を粘り強く行った事により、市況はもちあいで推移しました。11月中旬には、中間産地もほぼ終了を迎え、今後は貯蔵産地（倶知安・土幌・北見）が中心となり、出荷量も安定する事から価格浮揚に努めております。

加工向け馬鈴しょでは、チップ業界は新じゃが商品展開や新商品により、売場は確保されており、順調な販売展開が続いております。コロッケ業界は、市販・業務用中心に需要喚起に努めております。サラダ業界は、需要回復の動きは見られますが、惣菜用、外食、CVS向けは前年を割れる低調な販売となっております。今後の販売については、消費地の気温低下に伴い荷動きは回復しつつ、じゃがいも煮炊き商材を含めた消費が増える事から市況は緩やかに浮揚している状況にあります。今後の鹿児島・長崎を中心とした府県産馬鈴しょの生産出荷動向に注視し、良品質出荷に向けた管理を行いながら、更なる価格浮揚を目指して参ります。

販売環境は、6月末までは佐賀県の豊作基調から市場入荷量が増加し市況は軟調に推移、7月上旬の西日本豪雨の影響による輸送障害から転送品の引合いが強まり市況の浮揚が見られたものの、7月の連日の酷暑により末端消費は停滞する状況となりました。そのような環境の中、8月上旬から北海道産玉ねぎがスタートしましたが、台風13号によるJRやトラック輸送の乱れから益前販売の出荷量に制限がかり、本格的な販売は益明け17日以降となりました。それまで佐賀産・淡路産L（道産規格のL大）中心の販売の状況下、道産はL規格の発生が高いことから、L規格は軟調に推移しましたが、早生に切替わり規格発生比率がL大に傾斜、規格変化に応じた販売を進めました。

量販店では、一般野菜の入荷量が引き続き不安定な事から、野菜の売場作りには安定入荷が見込まれる道産玉ねぎへシフトしました。

9月は、台風21号及び胆振東部地震に伴う様々な影響により、9/15までは計画的な出荷が行えない産地が多く、各産地共9/10には選果作業が再開しているものの、トラック・JRコンテナの手配状況に応じた選果量となり、出荷先についても出荷可能なエリアへの限定的な出荷の状況となりました。そのため北海道産青果物の入荷が減少し品薄状態の中、市況は強含みで推移し全国的に新着の荷物が待たれる状況となりました。

10月以降は輸送が安定しましたが、各産地出揃い一定程度の出荷量が見込まれることから、市場入荷量集中の回避と合

わせて積極的な消費喚起と全道販売諸対策を講じながら、需給バランスの適正化を図った販売をすすめました。

11月以降は、一般野菜の不安定入荷が続いており堅調な相場展開となっている品目が多いものの、品目によっては高値疲れから、弱含みの市況展開となっている一方で、玉ねぎの荷動きは好調で市場は全国的に不足感が出ており市況は強含みで推移をしています。

加工業務情勢は、加工ユーザーへ本年の北海道産の作柄状況を踏まえ、不要な輸入の呼び込みが無いよう加工ユーザーへのアナウンスを行って参りましたが、国産縛りの無いユーザーは輸入の原料手配をする動きが徐々に見られており、輸入量は昨年を上回る見込みです。

輸入玉ねぎの動向は、中国産については8月までの中心産地の山東省は豊作基調でしたが、9月から切替わる甘肅省は降雨の影響により、やや小玉の見通しとなっており、病害の発生も懸念されている模様です。現況の価格は加工業者の引合いが強まったことから、値上がりをした状況で推移しており、甘肅省の作柄と北海道産の供給動向を見ながら価格の底上げを行うと想定されます。

アメリカ産は、カルフォルニア産が終盤を迎えており、9月よりワシントン産に切替わる模様で、作柄については順調との見方がされています。

今後に向けては、30年産の生産量を踏まえた全道需給調整対策を取進めた中で、消費地動向や一般野菜状況を見据え、価格浮揚に向けた取組みを進めて参ります。

特集 平成30年産 農畜産物を振り返って



**血統により、格差広がる
優良血統で経営強化**

きたみらい黒毛和牛振興会
会長 **今部 直廣**

本年は6月下旬から7月中旬の長雨により、一番草の収穫が大幅に遅れたことによる品質低下に加え、二番草も収量が少なく、来年に向け粗飼料の確保が心配される状況にあります。

枝肉価格の低下に伴い、素牛取引価格も低下傾向になっていますが、素牛によっては、血統により格差が大きく、生産者にとって優秀な種雄牛の交配が出来ない状態にあります。

振興会では黒毛和種振興事業により優良血統の保留や導入を推進し安定した経営を目標に取り組んでおります。

年度中にTPP11が発効され、海外からの牛肉輸入による価格の下落も心配なところありますが、来年度も会員の皆さんが健康で事故などのない実り多い一年でありますことを期待致します。

初妊牛は、規模拡大による生乳増産基調が継続しており、旺盛な需要に対する乳牛資源不足が初妊牛価格の高騰に拍車をかけ、昨年より高値での推移となっております。今後は初妊牛の資源が全体的に増えてくる予測はあるものの、規模拡大農家を中心に一定量の需要が見込まれることから、相場は強保ち合いで推移すると思われま

和牛素牛は、春先に値を下げましたが、その後は値を上げ前年並みの価格で推移しています。枝肉相場では、ホル肥育は昨年10月以降2等級で税込み1,000円/kg程度の相場を維持しております。交雑種肥育は5月以降2等級、3等級で値を上げています。和牛肥育は、ほぼ前年並みの価格で推移しております。

乳用牛

**規模拡大等による旺盛な
需要、相場は強保ち合い**

肉用牛

**相場は落ち
着き傾向**



**停電時の対応
に感謝**

きたみらい酪農振興協議会
会長 **中島 英樹**

節目となる平成30年は、酪農業にとっては忘れられない年となりました。自然に対する無力感と麻痺した人工物への無力感に晒されました。6月には低温、その後7月中旬まで続いた長雨により1番草の刈取りが半月以上も遅れ、デントコーンについては生育の遅れを取り戻せず、良質粗飼料の確保ができませんでした。しばらくの間は生乳生産のみならず繁殖成績、疾病予防や代替粗飼料の確保など苦労する事になりました。

更に9月には、北海道胆振東部地震による停電で、搾乳作業のみならず乳業工場ストップにより生乳出荷も出来ない中で、生乳の自家廃棄をせざるを得ない状況となり、復旧後も、それが原因の乳房炎やその他疾病が多発しました。そんな中ではありましたが、主に玉葱農家の皆さんからは発電機の借入れやJA職員や電気工事関係者にも早朝から夜中まで対応して頂き、この場をお借りして御礼申し上げます。

新年を迎えます。乳価も個体販売も順調に推移しておりますが、対外貿易交渉の行方や国内生乳需給の推移など不安定要素は多々あります。来年から始まる5次の中期計画に盛り込まれる対策を活用しながら、きたみらい農協の核の一つとして酪農組織一同猛進していきたいと思

平成30年度の生乳生産目標数量は、平成28年度に新たな「生乳安定生産対策」が設定され、生産者の意向数量を生産目標数量として積上げることとなりました。当JAの生産目標は、前年実績に対し100・5%の88,309トンで設定されました。ブール乳価では4月から生乳1kg当たり33銭(チーズ25銭、補給金8銭)の上積みがされました。

生乳年度(4月～3月)における全国の生乳生産量は前年比累計で100・2%、全道でも10月末累計で101・3%と前年を上回る状況で推移している状況です。JAきたみらいでは酪農組織の振興方策を打ち、8月末では前年比累計100・4%と搾乳中止による減産をカバーしていましたが、9月6日に発生した北海道胆振東部地震による大規模停電の影響で551トンの生乳出荷が出来ず、また、乳房炎の発症などから、9月単月は前年対比90・9%、累計で98・9%となりました。10月単月は前年対比99・6%とほぼ前年並みの出荷量となりましたが、累計では99・0%となり、後半においては長雨による1番草の刈遅れによる品質低下、デントコーンの生育不良による収量減の影響が懸念される状況

生乳

**自給飼料の不良で
今後の生産に影響**

飼養戸数では直近のデータで全国は4・3%の減少、北海道でも2・7%の割合で断続的に減少しております。飼養頭数は北海道で1・5%増加し、都府県で1・2%減少、全国では15年振りに0・4%増加となりました。一戸当たりの飼養頭数では増加傾向が続いております。1番草収穫は長雨により収穫作業が大幅に遅れ、収量では前年対比103%の作柄でしたが、栄養価と嗜好性が低下(炭水化物やタンパク質などの栄養価が低く、硬くて食味が悪い)しました。2番草は1番草の刈遅れの影響などにより、収量は前年対比で92%となりました。

デントコーンは、低温と長雨による影響で生育が遅れ、乾物収量は前年対比82%と大幅な減収となりました。粗飼料の品質低下は搾乳牛に大きく影響を与えるため、次年度の生乳生産が懸念されます。JAでは昨年に続き生乳増産対策事業を継続実施しており、生産目標の達成に向けて生産基盤の確立を目指して参りました。また、生産技術向上や経営指導の実施、各種補助事業の活用による生乳増産に取り組んでおります。

◇生乳生産実績(30年4月～10月)

	目標数量 (t)	29年度 実績対比	30年4月～10月 数量(t)	進捗率
全道	3,884,657	102.3%	2,254,321	58.0%
管内	574,604	102.6%	333,463	58.0%
きたみらい	88,309	100.5%	51,068	57.8%

◇衛生的乳質実績(30年4月～10月)

	生菌数		体細胞数	
	(1.4万以下)	前年増減	(30万以下)	前年増減
全道	98.3%	△0.2	98.0%	△0.4
管内	97.6%	△0.5	97.6%	△0.4
きたみらい	98.0%	△0.8	95.4%	△2.4



西地域運営委員会は11月16日、西地域の青年部・女性部・フレッシュミズ役員と地域役員の懇談会を温根湯温泉ホテル大江本家で開催しました。この会議は、地域ならではの悩みや課題を話し合い、解決をしていくために平成26年度から開催されており、今年で5回目となりました。

当日は、地域の理事や各組織代表者、JA担当者など合わせて20名が参加しました。

この懇談会の意義や組織に充てられている予算の必要性について協議しました。

その後の組織からの要望の中では、青年部からの「各活動への参加を促すにはどうしたらよいのか？」という質問に対し、理事や監事からそれぞれ解決策や青年部事業に対する想いを話しました。

終了後は、同会場で懇親会を行い、さらに交流を深めました。

南地域は11月末に行い終了しており、東地域は12月中旬に行う予定となっています。（菊池 光祐）



▲懇談会で開会挨拶を行う牧野委員長

西地域 温根湯 地域の課題解決の足掛かりに

～三組織役員と地域理事の懇談会～



▲担当の藤田職員と生育状況を確認する長谷川さん

東地域 端野 収穫を待って順調に生育

～寒締めちぢみほうれん草～

きたみらい管内では、11月中旬から寒締めちぢみほうれん草の収穫作業が始まっています。

11月27日、端野地区・長谷川政義さんのハウスの中では、鮮やかな緑に成長したほうれん草が収穫を待っていました。

この日の糖度測定では出荷基準に満たなかったため、基準値を超えるまでハウスを開けて寒気にさらし、さらに甘みをのせます。長谷川さんは「生育は例年並みで株の大きさもちょうどいい。あとは寒さに期待したい」と意気込みを語りました。

9月上旬から中旬にかけてハウス内に播種されたほうれん草は、約2カ月間じっくり育てられ、肉厚で甘みがあるのが特徴です。今年度、きたみらい管内では12戸1,851坪で作付けされており、収穫作業は12月上旬ごろまで続きます。（石井 睦美）



地

域

だ

よ

り



当JAでは11月6日から7日までの2日間、北見市西相内の小麦乾燥調製貯蔵施設内で農業用廃プラスチックの回収を行いました。近年環境負荷の軽減、資源の有効活用などから、再生可能な資源としてできる限りのリサイクルをすることが求められており、春と秋に回収作業を行っています。

今回は約150トンの廃プラスチックを回収し、組合員宅から運ばれてきた廃プラスチックは、運送業者の協力のもと積んできたトラックから降ろされ、同施設の敷地内に山のように積み上げられています。

集められた廃プラスチックは、今後発電用燃料として12月上旬までに処理業者へ運搬されていきます。

（臼井 慎吾）

西地域 相内 秋の農業用廃プラスチック回収

～資源を有効活用しよう～



▲リフトで廃プラの回収作業をしているところ

南地域 置戸 本格的な冬を前に安全運転の呼びかけ

～女性部置戸支部 交通安全街頭啓発～



▲街頭啓発を行った部員のみなさん

女性部置戸支部は11月6日に交通安全街頭啓発を行いました。

当日は肌寒い中、部員15名が参加。交通整理を勝山駐在所の方をお願いし、エコープ前の交差点で信号待ちの車や買い物客などに部員が生産した玉ねぎ・馬鈴しょ・かぼちゃなどが入った袋詰めを配布しました。

道路の両側で交通安全の旗を振りながら、通る車1台1台に呼びかけをし、11時頃から20分ほどでしたが、用意した53袋をすべて配布することができました。

配り終えた部員は、自分達もこれから冬を迎えるにあたり、車の運転の際には十分に注意し、事故にあわないようにしようと再認識していました。

（山本 直美）

きたみらい
青年部



「仲間づくり」を
大切に

温根湯地区・大和
長尾 竜機さん(32歳)

- 農業を選んだ理由
子どもの頃に祖父から常日頃、農業を継げと言われていた影響が強いです！(笑)
- JAきたみらい青年部に求めること
他地区との交流をもっと増やして、仲間としての「信頼」を深めることが大事だと思っています。色々な場所に出向いて、友達と遊びに行くくらいの感覚で楽しめましょう！
- 農業にける思い
自分たちが作っているものは、消費者の生活を支えているものだという意識を持ち、安全面に特に気をつけていきたいです。また、地域の仲間と協力し、楽しく農業をしていくことが私の目標です！
- 自分の支部の活動自慢
平成27年度から西支部が始動し、4年目となりました。支部の目玉事業は小麦や大豆、小豆の農業試験です。部員が協力をしながらより良い営農を目指して活動しています。

今後も支部内での交流を目標に掲げて、青年部で何ができるのかを考えながら、活動をしていきたいです！
今回はJAきたみらい青年部西支部地区役員の長尾竜機さんに登場いただきました。(菊池 光祐)

Pretty Woman
ウーマン



部員が少ないからこそ
の交流を

端野地区・協和
嶺 三紀子さん

今回は女性部端野支部の嶺支部長に登場いただきました。(石井 睦美)

◆出身、結婚に至るまでは？

北見の出身で、結婚するまで幼稚園教諭をしていました。行きつけのお店にいた時、結婚式の二次会でまたまた主人と知り合いました。農家に嫁ぐことに不安もありましたが、1年半交際して結婚に至りました。

◆お子さんは？

息子が2人います。子どもが小さい間は私の希望で、しばらく畑に出ず子どもの面倒をみていました。当時はすぐ保育所に預ける家庭が多かったので、家族の理解があったのことに感謝しています。子どももすっかり大きくなり、今年から次男が就農したので、仕事も楽になりとても助かっていますね。

◆趣味は？

ヨガを20年近くやっています。体の調子が整うので、仕事の為には欠かせなくなっています。茶道の仲間と集まって、お茶会やおしゃべりをするのも楽しみのひとつですね。ボランティアサークルにも所属していて、老人ホームの訪問など出来る範囲で活動しています。

◆女性部活動で楽しいこと、今後の抱負は？

女性部員は年々減少していますが、少ないからこそ出来ることもあると思います。今まで交流が無かった人とも話す機会が増え、新しい仲間の輪が広がっていくのではと感じています。地区を越えた交流を少しずつ深めながら、和気あいあいと活動していけたらいいなと思います。



▲灯里ちゃん(左)と果凛ちゃん(右)

北見地区・豊地
吉田 かりん
果凛ちゃん(5歳)
あかり
灯里ちゃん(3歳)

わが家のアイドル

二人の気分はいつでもアイドル!!

吉田家を訪れると少し照れながらも出迎えてくれた果凛ちゃんと灯里ちゃん。

優しくして少し泣き虫の果凛ちゃんはアイドル戦士のフウカに憧れており、将来は「フウカになりたい!」と女の子らしい夢を教えてくださいました☆ また、「プールの中でプクプクできるようになったの!」と最近の出来事も語ってくれました。

しっかり者の灯里ちゃんはコキンちゃんとマジマジジョビュアーズのモモカになりたいという立派な夢を持っています。最近ではしっぽとりゲームや、お家でおばあちゃんとお姉ちゃんとかくれんぼをするのがマイブーム☆「ここに隠れるの!」と大切な隠れ場所を暴露してくれました。

日頃からアイドルになりきる2人は大の仲良し。夢に向かって努力することは素晴らしいことですね。

姉妹の成長する姿をみて、お母さんの理恵さんは「のびのび成長し、素直な子に育ってほしい」と話してくれました。将来、アイドルデビューしている2人を見るのが楽しみです(^ - ^)

果凛ちゃん、灯里ちゃんは吉田誠一さん・理恵さん夫妻のお子さんです。(大橋 弥生)

Qお付き合いのきっかけは？

一味さん…青年部の飲み会で射止めました。
幸恵さん…青年部の飲み会で捕獲されました。

Q趣味は？

2人…温泉めぐり(最近行けてない)。

Qこれからしたいことは

2人…新婚旅行に行っていないので
いつかハワイへ…

Qお互いの好きなところは？

一味さん…思いきりがよく、頑張り屋さんで
前向きなところ。
幸恵さん…心身ともにどっしりしてて、頼りがいのあるところ。

Qお互いへの感謝の言葉

一味さん…子ども、家族、地域のことと共に
仕事も頑張ってくれてありがとう。
幸恵さん…子育てや家事や仕事で、私ができていない事をいつもさりげなくフォローしてくれてありがとう。
(臼井 慎吾)



ながよし夫婦

いつかハワイへ!

置戸地区・幸岡
井 上 かず
味さん(47歳)
え 恵さん(45歳)

JAからの お知らせ INFORMATION

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトを「ご覧ください」。

JA北海道中央会



11月13日、JAグループ北海道の役員はじめ約2400名が参加し、「第29回JA北海道大会」を開催しました。大会では、将来ビジョン「北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現を継承し、重要性を増す「協同組合の価値と実践」を決議しました。協同の力と総合力を発揮し、一丸となって決議事項の実践を通じた自己改革に取り組みます。
決議事項の実践内容や農業・JA・協同組合の意義や価値の発信により、北海道550万人から信頼されるJAグループ北海道を目指します。



JA北海道信連



9月に、札幌市において、小学生が社会の仕組みを学ぶ職業体験イベント「ミニさっぽろ」が開催され、JAバンク北海道では金融機関という役割で参加しました。

JAバンクでは、お金の数え方の練習やお仕事体験した子へお給料を支払う仕事を体験してもらい、中には「お金持ちになったみたい」とお礼の束を上げる子も・・・。

未来のサポーターづくりへ、来年以降も参加していきたいと思っています。



ホクレン



北海道の味覚を一堂に集めた毎年恒例秋のイベント「2018第47回ホクレン大収穫祭」を札幌三越本館で開催しました。今年はJA北海道女性協議会の「私の心を込めた農畜産物おむすび」とJA北海道農協青年部協議会の「農業クイズ」などの生産者参加イベントも行われ、大収穫祭を盛り上げ、連日、どの売り場も秋の味覚を求める人々で大盛況でした。



JA共済連北海道



10月27日(土)にANAクラウンプラザホテル札幌にて、第45回目となる「平成30年度JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」の表彰式を開催しました。全道より4,342点の応募をいただいた中から金賞9作品が選出され、受賞されたみなさんが表彰されました。
今回受賞された作品は、さっぽろ雪まつり会場・道庁ホールでの展示等が予定されておりま



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。
年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。
ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非一読ください。



変わるJA 広がる地域のぎずな

監修＝広島大学 助教 小林元

Q. JAは地域にとってどんな存在なの?

A. 地域の食やインフラ機能を支え、地域を元気にします。

協同組合は組合員自らが、くらしや生業(なりわい)の願いやニーズを共有して、事業を運営しています。JAは、営農・経済事業(生産資材の共同購入や生産物の共同販売)を通じて、組合員である農業者の所得の向上や農業生産の拡大を進めています。また、くらしの願いやニーズに対応した信用、共済、生活購買、厚生(医療)、旅行、介護などさまざまな事業を行っています。

そして「JA健康寿命100歳プロジェクト」などを通じて高齢者福祉活動を展開、食農教育や組合員・地域住民の交流活動、直売所の運営などにも取り組んでいます。これらの取り組みは、組合員の願いやニーズを叶えると共に、食と農を通じて地域を豊かに、そして元気にする取り組みです。

JAは、地域に根ざした協同組合として、組合員だけでなく地域住民が必要とするくらしに関わる事業を総合的に提供しています。JAは、地域になくてはならない協同組合として、地域を支えるインフラ機能を発揮しているのです。



KiT CURLING CLUB活動報告



▲Kamloops大会でベスト4になった時の写真



▲Victoriaでの練習風景

こんにちは！私はKiT C.C所属の臼井慎吾です。
(上段写真右から2人目、担い手グループ所属)
チームの現在の活動報告をさせていただきます。

私たちは10月21日～11月9日まで、カナダ遠征に行き、2大会に出場しました。

このチームになってから、初の海外合宿で不安もありましたが、私たちにとっては大きな経験となりました。

カナダ遠征に行くことができたのは、JAきたみらいをはじめ、私たちのチームに支援してくださっている企業、地域の方々など多くの方々に支えられているからだと思っています。この場をお借りし、感謝申し上げます。ありがとうございます。
これから本格的なシーズンが始まります。

私たちも全力で戦っていきたいと思いますので、応援宜しくお願いします！

▶試合結果◀

- Kamloops Crown of Curling (カムループス大会)
→ ベスト4 (通算成績4勝2敗)
- Raymond James Kelowna Double Cash(ケロウナ大会)
→ 予選敗退 (通算成績2勝3敗)

INFORMATION

青年 女性 ネットワーク



①



②



③



④

オホーツクJA青年部協議会は11月8日、温根湯温泉ホテル大江本家で第47回オホーツクJA青年部研修大会を行いました。

「ステップアップ!!」新たなステージへ」を大会テーマに掲げ14単組から約100人が参加。オホーツクJA青年の主張発表大会、基調講演のほか、農村ホームステイ受入実績発表、動画コンテストが行われました。

オホーツク JA 青年部研修大会

基調講演では、前全国農協青年組織協議会 参与の黒田栄継氏が「これからの青年部に必要なこと」と題したテーマで講演し、「青年部員はこれからの農政活動を真摯に受け止める必要」と述べました。その後、グループディスカッションを行い、組織活動の必要性を確認しました。

夕食の懇親会では、オホーツクアームレスリング大会と純農Boy発表会が行われました。

- ① 基調講演を行った黒田栄継氏
- ②・③ グループディスカッション 意見交換会
- ④ アームレスリングで奮闘する伊藤部員（右）
- ⑤ 純農Boy発表を行う佐藤部員



⑤

青年 女性 ネットワーク

運動会でリフレッシュ JAきたみらいフレッシュミズ運動会

JAきたみらいフレッシュミズ（大橋加奈子会長）は11月15日、置戸町ファミリースポーツセンターにて会員交流研修会として運動会を行いました。会員48名が参加しました。

この運動会は平成16年から毎年開かれ、今年で15回目。5つある支部の交流を目的として行われており、今年も支部混合の5チームに分かれ、団結して競技に挑みました。



②



①



③



⑤



④



⑥



⑦

大橋会長は「この研修会をきっかけに会員の皆さんの仲が深まり、街角で会っても、気軽に声をかけられるような仲間になればと願っています」と挨拶。役員の伊藤里美理事、篠原亜実監事が「会員の健康と親睦を図るために、女性らしく優雅に、

若々しく、時には勇ましくプレーすることを誓います」と選手宣誓しました。参加者はレスキューゲームなど定番競技のほか、本部役員が考案した新競技など7種目に挑戦しました。最終種目の「作業着お着替えリレー」では、アンカーがゴールすると大きな歓声があがり、お互いの好プレーに歓声や拍手が送られました。運動会終了後は置戸中央公民館に会場を移し、懇親会が行われ、役員が考案したチーム対抗のゲームでさらに交流を深めました。

- ① 挨拶を述べる齊藤常務
- ② 開会挨拶を行う大橋会長
- ③ 選手宣誓をする篠原監事（左）、伊藤理事（右）
- ④ コーンを回るのが難しい縄跳びリレー
- ⑤ 借り人競争でダッシュ！
- ⑥ 息を合わせてレスキューゲーム
- ⑦ 手を使わず体全体でフラフープを通るリングリング

第10回 理事会報告

11月27日、午後1時30分より第10回定例理事会が開催され、報告事項7件、決議事項6件が協議され、原案通り承認されました。

- 【報告事項】
- ①組合員状況報告について
 - ②財務状況報告及び決算見込について
 - ③反社会的勢力等との取引排除および組織犯罪等の防止にかかる対応状況について
 - ④疑わしい取引の届出状況について
 - ⑤H30年産共計玉ねぎ・馬鈴しょの選果販売状況について
 - ⑥2018長いも祭り収穫感謝祭実績について
 - ⑦H30年産麦類の生産実績について

- 【決議事項】
- ①出資減口について
 - ②固定資産の取得について
 - ③規程類の改正について
 - ④年末手当の支給について
 - ⑤役員報酬審議会委員の選任について
 - ⑥平成31農業年度事業推進方針について

組織間で悩みを話し合う 三組織合同意見交換会

JA青年部（安齊亮一部長）、女性部（小林まゆみ部長）、フレッシュミズ（大橋加奈子会長）は11月30日、センター事務所で三組織合同意見交換会を行い、計24人（青年部員7人、女性部員9人、フレッシュミズ会員8人）が参加しました。

それぞれの抱える悩みを話し合い、部員の勧誘や家族間のコミュニケーション、青年部の婚活事業についても報告があり、各組織の活動についてより理解を得ることのできた意見交換会となりました。

懇親会に場所を移してから活発な意見交換が行われ、交流を深めました。



▲意見を出し合う三組織のみなさん

北日本少年野球選手権大会に出場

～来年の活躍に期待が高まる～
訓子府K.L.球友5年生 菅野 蒼太(そうた)くん、近藤 佑(ゆう)くん



▲菅野 蒼太君



▲近藤 佑君



▲訓子府K.L.球友の皆さん

岩手県雫石町で11月3～4日、第15回北日本少年軟式野球選手権大会に北海道代表で出場した、訓子府町の野球少年団「訓子府K.L.球友」（以下、同チーム）を紹介します。

同チームは8月に開催されたホクレン旗争奪第36回北海道少年軟式野球選手権大会で創部以来最高成績の準優勝、同北日本大会の出場権を獲得、チーム最高成績を上げました。試合結果は1回戦一戸野球少年団（岩手県）に0－5で惜しくも敗れました。

同チーム5年生には訓子府地区福野の菅野蒼太くん（菅野司さん）、近藤佑くん（近藤寛さん）がいます。今大会の出場は叶わなかったのですが、負けたチーム同士で5年生以下の練習試合を行いました。ふたりのポジションは菅野くんがショート、近藤くんがセンターを守り、本番試合と違ってチームみんなが伸び伸びとプレーし、連勝。来年の活躍が期待できる試合運びで応援に駆け付けた保護者らは盛り上がりました。

◆組合員の子どもの活躍（文化・芸術・スポーツなど）の情報を担い手グループへご連絡ください。紙面でご紹介いたします。

新車 早期予約 キャンペーン

平成31年1月15日[火] 受注分まで

軽トラック

期間中、軽トラックを新車でのご契約で付属品プレゼント!

軽バン

期間中、軽バンを新車でのご契約で付属品プレゼント!

乗用車スズキ

期間中、スズキの乗用車を新車でのご契約で付属品プレゼント!

フォークリフト キャンペーン

登録期間は平成31年1月1日～3月31日まで

KOMATSU

ホクレンSSポイント 40,000Pt 進呈!

TOYOTA L&F

ホクレンSSポイント 40,000Pt 進呈!

営農用トラック

期間中のお買い求めがお得です!

各キャンペーンのお問い合わせはお近くのJAまで

【お問合せ先】

JAきたみらい 燃料自動車グループ
生産資材拠点センター
(☎ 0157-47-2099)

伝書鳩WEBサイト「オホーツク特選街」掲載中!

きたみらい給油所のお得なイベント情報などを掲載!
(下記URL・右側QRコードで公開。スマホからでもOK!)

<http://denshobato.com/tokusen/hokuren-ss-kmi/top.tks>

相談員だより

◆ 冬号 第8号 ◆

◆生活不活発病◆～負のスパイラルを断ち切ろう～

生活不活発病とは…生活が不活発なことが原因で、全身の機能が低下すること

生活不活発を予防することは、介護予防に繋がります。買い物などの外出や軽い体操などを行い生活が不活発にならないように気を付けましょう。

おひさまサラダ COOKING

♥おいしいもの大好き!♥



朝ご飯の献立例

- ・根菜とミツバのおかゆ①
- ・切り干し大根とミツバのおひたし②

●献立を監修した人●
茨城県笠間市にある
「キッチン晴人(ハレジン)」
オーナーシェフ
永井 智一(ながいとまかず)

① 根菜とミツバのおかゆ

【材料：4人分】

米……………1/2カップ
水……………3と1/2カップ(7倍量)
ごま油…………大さじ1/2
ダイコン…1/8本(短冊に切り下ゆでする)
カブ…………1個(1/8に切り下ゆでする)
ミツバ…………1/2束
塩……………適宜

【作り方】

- ①米をとぎ、ざるにあげ20分置いた後、ごま油を絡めておく。
- ②手鍋に水と①を入れ中火にかけ沸騰したら弱火にしてコトコト炊いていく。
- ③炊いていく途中で、ダイコンとカブを入れ塩で味を調え、刻んだミツバを散らして出来上がり。

メモ

炊き上がりまでの
時間の目安は
20~30分

② 切り干し大根とミツバのおひたし

【材料：4人分】

切り干し大根…30g ミツバ…1束
かつお節…適宜
だし汁
かつおだし……………1と1/2カップ
薄口しょうゆ…大さじ1
みりん……………大さじ1
塩……………小さじ1/2

【作り方】

- ①切り干し大根を水で戻し、固く絞っておく。ミツバは1cm幅に切る。
- ②だし汁を沸かし、切り干し大根を入れて弱火で10分煮て冷ましておく。
- ③ボウルに切り干し大根とミツバを入れて混ぜ合わせ、器に盛りだし汁を適量張り、かつお節を散らして出来上がり。

編集後記

- ・今年の遅い初雪には驚きましたね。全道的にみても、例年より20日ほど遅いようです。ハウスをかけるのが遅くなってしまった!という方にとっては、良かったかもしれませんが、雪が少なかったり、暖かかったりすると、それはそれで塩梅が悪いものです。天気は平年並みになってくれるのが一番いいのかなと感じます。
- ・あと1ヶ月で2018年も終わりです。暴飲暴食や疲れが原因で、年明けに体調を崩す人が多いそうです。今から疲れをためないように注意し、楽しい忘年会の飲食もセーブして、健康に年末年始を過ごしましょう。今年もおひさまサラダをご愛読いただき、ありがとうございました(^_^)!!(石井 睦美)

JAきたみらい概要

(平成30年11月19日現在)

- ・組合員数(正) 1,677人
- ・組合員数(准) 6,361人
- ・組合員戸数(正) 1,002戸
- ・貯金 107,689百万円
- ・貸出金 18,598百万円
- ・出資金 4,900百万円